

学 校 関 係 者 評 価 報 告 書

愛媛県立松山工業高等学校  
学校番号 25

評 価 実 施 日		平成30年2月22日（木）	
委 員	氏 名	所 属 等	備 考
	玉川 徹	松山市内 中学校長	
	菊池 伸英	同窓会長	
	大北 謙治	前同窓会長	
	松永 公一	P T A会長	欠席
西川 健司	前P T A会長		

評 価 ・ 提 言 等	提言等に対する改善方策等
<p>1 今年度の最終評価について</p> <p>(1) 学習指導 先生が熱意を持って魅力ある授業をすると、生徒がついてくる。家庭学習の充実にもつながるのではないかな。</p> <p>ICTの活用に関してのアンケート結果で、保護者の回答と生徒・教員の回答とに差異がある。保護者に対しての宣伝不足ではないかな。</p> <p>ICT教育を推進しているが、ICTの活用が、生徒の能力向上につながるのか疑問である。</p> <p>(2) 生徒指導 交通事故0を目標に取り組んでいるが、実際は12月末までに15件もの事故が起こっている。小さな事故が、いずれ大きな事故につながる。事故の報告を分析し、防止策を講じることで、事故の未然防止に努めないといけない。</p> <p>(3) 進路指導 生徒に、学期始めに目標を書かせ、学期末に担任と話しながら自己点検をさせる。それを資料として蓄積させることで、進路に対する意識を高めることにつながるのではないかな。</p> <p>就職状況は、よい数値が出ているが、本当に希望に添った進路実現はできているのかな。</p> <p>(4) 特別活動 いくつかの行事に参加して、子供たちが生き生きと活動している様子が見られた。</p> <p>(5) 工業指導 ジュニアマイスター顕彰制度のゴールド・シルバーの称号を得ることは、就職にプラスになっている。もっと奨励したらよい。</p> <p>ものづくりを通じた社会貢献は、具体的にどのようなものが行われているのかな。</p> <p>(6) 環境整備 奉仕活動の充実を目標に取り組んでいることが、地域への貢献につながっており感謝したい。</p> <p>2 重点目標について 国公立大学への進学を大きく取り上げすぎではないか。私立の大学にも専門性が高い、よいところがある。</p> <p>国公立大学30名合格というのは、偏った目標である。もう少し、進学全体を考えた目標にしたほうがよい。</p> <p>3 説明・公表について 学校の自己評価は、年度始めと年度終わりに行い、1年間どう変わったのかを見ないといけない。自己評価の方法を改めるとよい。また、声なき声を拾い上げられるように、意識することが必要である。</p> <p>学校評議員と学校関係者評価委員とは、立場が違う。評議委員会と評価委員会の順を考えるなど、会議の在り方を検討してはどうか。</p> <p>4 学校運営への提言 松山工業高校が、進学できる学校であることもっとアピールすべきではないか。その指導体制は、できていると考える。</p> <p>〔定時制〕 定時制の授業や行事を知ってもらうためにも動画による情報発信はできないか。また、授業参観の機会を設けているのか。</p> <p>技術を身に付けること、部活動、教育の向上による大学進学者の増加、これらをバランスよく実践することが大切である。</p> <p>工業高校なので、大学進学に重点を置きすぎず、ものづくりの技術を身に付けることを忘れないようにしないといけない。</p>	<p>・朝早くから、夜遅くまで部活動に取り組み家庭での学習時間確保が難しい生徒もいる。まずは、学習内容を授業で理解できるように、分かる授業の確立に努める。宿題も精選して出すようにしており、今後は学習支援クラウドサービスやタブレットを使った学習時間の把握も進めていく。</p> <p>・今年度は、学習支援クラウドサービスを導入した。次年度に向け、各教室へのプロジェクタ設置を進めており、新入生には全員タブレットを持たせる。タブレットについては、家での学習にも活用できるようにする。保護者にも、学習支援サービスのIDを配布し、活用してもらおう。また、授業参観の機会を設ける。</p> <p>・ICTによる授業の効率化や、生徒への興味付けが、まず考えられる。ICTの活用には、良い面・悪い面があるので、今後、従来の授業とICTを活用した授業のバランスの在り方を研究し、有効に活用できるよう取り組む。</p> <p>・ヘルメット着用により重大事故にならずにすんだ事例もある。「ヘルメットの頼みもは命綱」を合い言葉に、事故によるけがを防止する。また、機会をとらえ、実際の事故事例や危険が予測できる通学路を具体的に示しながら、事故予防の講習を行う。</p> <p>・各学期に1回、外部講師や卒業生を活用した進路ガイダンスを行い、進路意識の高揚に努めている。また、キャリアノート（ファイル）に、ガイダンス資料や進路に関するホームルーム活動で活用したものを保存していくようにしている。進路希望については、各クラスで調査したり、学校全体では実力テストの実施時にアンケートの形で調査している。今後、調査方法についても研究する。</p> <p>・第1希望の企業に96%の者が合格した。就職決定後のアンケートでも、ほとんどの者が決定した進路に満足であると答えている。</p> <p>・アンケートでは、4分の3を超える生徒が、学校生活が楽しいと答えている。部活動の加入率は97%で、全国大会出場が18部、上位入賞も多く、各部とも高い目標を持ち活動している。学校行事でも、満足度100%に近い。</p> <p>・1月末現在で、ゴールド43個、シルバー59個、認定のべ人数102名の者が称号を得ている。目標の100名は達成できているが、更に多くの顕彰者ができるように、早い段階からの資格取得を奨励する。</p> <p>・機械科が「プライベートBOXリアカーの製作」、電子機械科が「愛媛国体PRカウンタボードの製作」、電気科が「廃材電線を活用した電灯製作」、情報電子科が「超音波センサーを使った災害用探索ロボットの製作」、工業化学科が「廃棄物再利用の実験」、建築科が「防災用かまどベンチの製作」、土木科が「橋梁の老朽化調査による防災対策の研究」、繊維科が「地域と連携した防火・防災用品の研究」を行った。</p> <p>・地域を愛する心の育成のために、今後も奉仕活動への参加を積極的に行う。</p> <p>・高大連携により、大学の先生に来てもらい、講義を聴くような機会を設けることで、学ぶことに対しての意識付けをしている。また、将来やりたいことを考えさせ、それが実現できる大学を選択させており、国公立大学に限定はしていない。</p> <p>・国公立大合格者を目標に上げることで、松山工業高校に対する話題作りになっていると考える。あくまでも、数は現在の状態を指し示す目安である。進学もできる松工を知っていただける効果的な目標・方法を今後とも検討・実践していく。</p> <p>・学校関係者評価委員会の資料は、2学期末の自己評価である。それを元に、3学期中に評価が上がるように、今も取り組んでいる。年度末には、再評価したものを県教育委員会に提出し、ホームページにも掲載する。1年間の変化が分かるような公表の在り方について検討する。</p> <p>・学校評議員の方々には6月と2月に、学校関係者評価委員の方々には2月に来校いただき提言をいただきたい。次年度は、それぞれの委員会の目的を明確にし、本校が今、重点的に取り組むことが把握できる会運営を行う。</p> <p>・中学生の体験入学、休日に行うオープンスクール、中学校長に出向いてのものづくり体験や各工業科長による説明会と松山工業高校を知ってもらう多くの機会を設けている。今後は、進学できる松山工業ということも大きくアピールしていく。</p> <p>〔定時制〕・中学校向けのパンフレットを作り、各中学校長に出向いて説明をしている。少人数教育による定時制のメリットを知ってもらい、定時制に対する理解を得るためにも情報発信は積極的に行いたい。授業参観については、いつでも可能である。電話等で問い合わせしていただきたい。</p> <p>・松山工業高校には、高い資質のある生徒が入学している。能力の高い生徒たちを伸ばす教育を実践できないといけない。高い技術力が必要な仕事に就ける体制を作ることが、松工生全体のレベルアップにつながる。</p> <p>・技能者ではなく、技術者としてのものづくりに携われる生徒を育てたい。その技術にも大学進学後に、更に高い知識や技術の習得を期待している。高卒での就職に関しても技術力を身に付けさせ、それを生かした職に就けるような進路指導を行う。</p>